

Q なぜ企業は撤退していくのか？

A 工業用水料金が安いから！

answer

現在、藤沢市の工場においては全て、そして県内横浜、川崎の一部の事業者を除いて、ほとんどが上水処理された高い水を買わされている状況がある。一方工業用水は処理が非常に簡素であり、安価で生成できる。先ずはモデル的に試算を行い、安い工業用水提供により、企業にとって魅力的な街が創造できるか検証していく必要がある。県税の収入の多くを法人税が占めている以上、収入確保という面からも重要である。



まず、「神奈川県、産業構造等分析調査報告書」平成18年度2月株式会社浜銀総合研究所の資料から抜粋する。



神奈川県のポテンシャル総括表

立地環境と神奈川県の課題

- ・ 中枢管理機能の集積が希薄
- ・ アメニティ機能が弱い
- ・ 高い地代、**工業用水料金**
- ・ 高水準の人件費
- ・ 少ない自然

各自治体の工業用水道単価 (円/m³)

自治体名	供給単価
全国平均	30.27
横浜市	57.57
川崎市	54.94

(注1) 供給単価=給水収益/年間総有収水量(計量分)

(注2) 神奈川県では横浜市、川崎市にそれぞれ1事業者が存在する。

出所：公営企業年鑑(2003年)

表2

尚、横浜市64工場、川崎市81工場が「表1」の単価となっており、それ以外は右の「表2」のように浄水処理されたものが、工業用水として使われているので工業用水料金は、さらに高くなる。

神奈川県業務用水道 県(H18.4.1改定)			
区分(m ³)	単価(円)	区分(m ³)	単価(円)
~8(基本料金)	710	~1,000	337
~50	201	~10,000	394
~100	221	10,001~	436
~300	280		

《資料》神奈川県企業庁提供資料

以下、県民企業常任委員会 平成22年3月1日(月)

井手たくの質問

企業庁として安価な工業用水を供給するという観点から、企業誘致の促進を図るという考え方は、議論の中で出てこなかったのか。

企業庁：議論されたとは聞いていない。

井手たくの質問

上水と工業用水では処理過程と処理費用にどのような違いがあるのか。

企業庁：工業用水の処理過程は、上水道のような薬品処理やろ過処理を行わず、原水を沈殿処理するだけなので、処理費用は取水送水費用のみと考えられる。

井手たくの質問

県営水道の給水区域では高い工業用水料金を払っているということか。

企業庁：そのとおり。

井手たくの質問

企業庁として、工業用水道を考えていく余地はあるか。

企業庁：県営水道が工業用水道をやるといふ議論にはならないのではないかと。



次ページへ続きます！

